

第6学年1組

体育科学習指導案

2007年7月13日（金）5限

場 所 小体育館

指導者 教諭

1. 単元名 「みんなでレベルアップ！マット運動」

2. 単元目標

- ・自分の課題をもち、友達と協力して行うとともに、器械・器具の安全に気をつけて運動できる。
(関心・意欲・態度)
- ・技の系統・技能のポイントを知り、友達と見合って考えながら練習に取り組むことができる。
(思考・判断)
- ・自分の能力に適した技に取り組み、完成度を高めることができる。
(運動の技能)
- ・自分の取り組んできた技を組み合わせた連続技ができる。
(運動の技能)

3. 指導に当たって

(1) 教材観

マット運動は、低学年の基本の運動、器械、器具を使つての運動（遊び）を土台に、4年生以後、器械運動に位置づけられている。

子どものこれまでの、転がったり、バランスをとりながら歩く・止まるといった運動（遊び）の経験をもとに、児童は、その動作を「技」として完成させたり、支える・スムーズに転がる・伸ばすといった美しさにつながる「感覚」を体感できたときに、達成感や自分の変容を味わうことができる。さらに、難度の高い技に挑戦しようとする意欲を掻き立てる特性があるといえる。

近年、子どもたちの遊びそのものの質の変化もあり、児童の遊びの中に、転がってみたり、逆さまになってみたり、腕で体全体を支えるなどといった遊びや生活経験が減っている。これは、近年の「子どもの体力低下」という危惧にも現れている。

(2) 児童観

クラスの児童たちは、明るく、課題を持って学習にまじめに取り組もうとする児童が多く、教師や仲間のアドバイスを素直に受け入れようとする。普通の授業では、自分の思いや考えを全体に広げようとする児童は半数ほどいる。

体を動かすことは大好きで、体育に対する関心も高い。しかし、これまでの学習を振り返ると、技能や記録を高めようとしたり、ゲームの戦術を考えたりする思考力は高いとは言えない。言い換えれば、運動そのものは好きだが、考えて運動をしようとする経験が乏しい傾向が見られる。

事前アンケートでは、マット運動を好きではないと感じている児童が全体の半数以上で、その理由ができない自分を見られたくない、痛い思いをしたくないというものが多かった。できるようになりたい思いよりも、恥ずかしさが大きな壁となって、やろうとする意欲を抑

えてしまっている現状があると考えられる。また、マット運動の経験不足からくる技能の未熟さも、マット運動に対しての消極的な態度につながっているのではないかと考えられる。

マット運動は好きですか？（実践前30人 回答）

とても好き	好き	あまり好きではない	きらい
0人	11人	11人	8人

マット運動で楽しいと思うのはどんなときですか。（実践前30人 複数回答）

できる技に挑戦しているとき	10人（33%）	先生に教えてもらったとき	2人（7%）
できない技が <u>できた</u> とき	20人（67%）	友達と教えあったり、励まし合ったりしたとき	4人（13%）
新しい技に挑戦しているとき	11人（37%）	その他	0人（0%）

マット運動で楽しくないと思うのはどんなときですか。（実践前30人 複数回答）

うまくできなかったとき	16人（53%）	痛かったり怖かったりしたとき	13人（43%）
協力してできなかったとき	1人（3%）	めあてが達成できなかったとき	5人（17%）
友達に笑われたり、いやなことを言われたとき	15人（50%）	たくさん練習ができなかったとき	5人（17%）

(3) 関わり合って学ぶ力を育てるため

授業をする上で、個人がどんな難しい技をできるかという視点ではなく、仲間との関わりの中で、個人の伸びや課題、何を学べたか・体得したかが互いに解り、それを認めていくことを大切にしたいと考えた。また、関わりを生かし、仲間から認められること、さらには、「できた」「できそう」「何かつかんだぞ」という自分の変容が自覚でき、運動の楽しさ・学ぶ意味を感じ、意欲の高まりにつながるようにしたいと願っている。学習課題を設定する際、内容を押し付けるのではなく、児童のやってみようという思いや願いにも則していきよう、児童自身が現状を知り、自分に合っためあてを立てられるようにしたいと考えた。

そのために、グループ学習を取り入れ、カードを利用して、どれだけ仲間の演技に対して、評価してあげられたか、逆に仲間から評価してもらったかを振り返らせたい。個に合った次の課題を持たせたかを教師が評価し、アドバイスを送ることとした。

さらに、マットの準備や後片付け、安全を意識して取り組めたかを毎時間ふりかえることも大切なこととして位置づけ、必ず振り返らせたい。

子どもたちには、「安全」「協力」「真剣」の3つの心がけを提示し、技の上達については、めあて①（ほぼできている技の完成度をあげる）とめあて②（技の系統性から、次に挑戦したい技に挑戦する）の2つのめあてを持たせて学習に取り組ませることとした。児童がより具体的に自分のめあてを持てるよう、技の系統図や視覚に訴える資料も用意する。







子どもたちのマット運動に対するマイナス意識をプラスに変えるべく、児童が運動の楽しさを感じ、生き生きと自己表現できる授業を目指していきたい。

4. 単元指導・評価計画（総時数 8 時間）

	学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
一(1)	オリエンテーション 学習の進め方・準備の仕方 安全について 補助運動の仕方 技の紹介と系統について	① マット運動に関心を持ち、 <u>安全に気をつけて</u> 、協力してマット運動をしようとする。(行動)		
二(5)	知る・高める・挑戦する (ねらい①) できる技を知り、完成度を高めていこう ・ カードにある技でできる技を試してみる ・ ポイントを意識し、より大きく、美しくできるように練習する。 (ねらい②) ステップアップ！できそうな技に挑戦しよう ・ 新しい技に挑戦する ・ 同じ技グループで練習し、ポイントや完成度を見合う。		② 自分のできる技を <u>知り</u> 、カードや系統図を見て、 <u>自分の課題</u> を見つけている。(行動・カード)	
				③ めあて1 できる技を練習し、完成度を高めることができる。(行動・カード)
		④ 友達と協力し、教え合い励まし合っ て運動をすることが できる。(行動・ カード)		
				⑤ めあて2 系統上にある新たな技に 取り組み、達成することが できる。(行動・カード)
				⑥ 系統上にある新たな技に 取り組み、達成することが できる。(行動・カード)
三(1)	技を組み合わせてみよう		⑦ 自分のできる技 を組み合わせた連 続技を考えている。 (行動・カード)	
四(1)	まとめ・発表会			⑧ 自分の取り組んで来た 技を組み合わせた連続技が できる。(行動・ノート)

5. 本時の学習（総回数 8 時間中 本時 2 次の 6 時）

- (1) ねらい 系統上にある新たな技に取り組み、達成することができる。【技能】（行動・カード）
 (2) 展開

学習活動	時	教師の働きかけと児童の思考の流れ	支援(○)と評価(☆)
1. 学習課題をつかむ	3	めあて② 新しく取り組む技に挑戦しよう <ul style="list-style-type: none"> 今日は、倒立前転の前転をスムーズにしよう 側方倒立回転で、足を高く上げるようにしたい。 初めてロンダードに挑戦するよ。コツをつかみたいな。 	○ 数人に発表してもらい、具体的な練習ポイントをつかんでいることをみんなで確認する。 ○ 「安全」「協力」「真剣」を再確認させる
2. 準備運動・補助運動をする	7	ケガをしないように、よく体の曲げ伸ばしをしよう リズムに合わせて、班の仲間と補助運動をしよう 丸太ん棒を跳び越える カエルの足うち ゆりかごから立ちましよう ウサギのハードル 倒立ABC 外がえる君 友達と息を合わせよう この前よりうまくできるぞ	○ 個々が課題に沿ったやり方をしているか巡視し、アドバイスする。
3. めあて②の練習をする	20	グループの人と協力して、めあて②の練習をしましょう。  <p>この前より足を高く上げて技を大きくしよう。ゴムひもを使った練習をして、グループの人に見てもらおう。(側方倒立回転)</p>  <p>ドスンと背中を打ってしまう</p>  <p>倒立をまず、しっかりといいよ</p> <p>倒立前転</p>  <p>今のは良かった？</p>  <p>とてもスムーズにできたよ。上手!!</p>	○技の練習では、声の安全と場の安全を確認させる。「いきます」「はい」 ○言葉や拍手で互いに評価させ、 <u>真剣さや協力</u> をほめる。 ○巡視し、技のつまずきに対して、練習方法やポイントをアドバイスする。
4. 発表会をし、評価する。	10	「ミニ発表会」をします。今日のがんばって取り組んだことを言ってから、技の発表をしましょう <ul style="list-style-type: none"> ときどきするな。がんばろう。 「できた！」うれしい。 	☆めあてとする技に取り組み、達成することができる。(行動・カード)
5. クールダウンまとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> 友達はうまくなったな。拍手をしよう。 うまくできないけれど、励まそう。よし、アドバイスもしよう。 今日のマット運動では、「安全」「協力」「真剣」を考えてがんばったぞ。次は、○○に挑戦しよう。ありがとう。	○クールダウンさせる。 ○今日の感想を言い合う。次時のめあてを持つ。友達に感謝する。

・視点 友達と協力し合って、技の習得に向けた工夫や努力をしているか。